

1 学校教育目標

伸びる子 強い子 やさしい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	児童が安心して学び、安全に楽しく生活できる学校 バランスの良い「知・徳・体」を育むことができる学校 地域と協働し、保護者や地域の期待に応え、信頼される開かれた学校
○児童・生徒像	自分から進んで、より高い所を目指して学び生活する子ども 健康で強い意志をもって、正しいことをする子ども 豊かな心で思いやりをもち、誰とでも仲良くする子ども
○教師像	使命感・展望・情熱をもち、指導・校務・研究にバランスのよい力量を身に付けた教師 児童が「できた」「分かった」「もっとやりたい」と実感できる、主体的な学びを引き出す授業ができる教師 児童を深く理解して共感的な生活指導に努め、「いじめを絶対に許さない学級づくり」が果たせる教師 組織人としての責任感、協調性を有し、高次元の和で結束する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・明るく素直で思いやりと優しさをもつ児童が多い。ICT機器の活用が高い子供たちである。
- ・教職員は、教育熱心で児童への愛情が深い若手教員とベテランのバランスがよい。中堅教員はミドルリーダーとしての力量があり、ICTを活用したよく分かる授業を行う力と担当校務の遂行力を備えている。全教職員が「西新井小を持続可能な学校にする」という理念のもと一致団結している。
- ・保護者および地域は学校に協力的であり、新型コロナウイルス感染症対策も徹底してくれている。地域は昔からの協力体制が整っており町会・自治会の結束力も高い。地域で子供たちを見守る風土もあり様々なボランティア活動を通して学校を支えてくれている。

【前年度の成果と課題】

- ◎特色ある教育の推進
- 情報教育拠点校として、授業研究・公開授業・指導資料の提供を行い、教育のレベルアップを図ると共に区内小学校への先進校としての責務を果たすことができた。今後は、さらに児童一人一台PCを生かした授業改善と新たに導入されるAIドリルの活用が課題である。
- 全学年とも防災巻の授業を継続し、「自分の身は自分で守ること」への理解を深めた。5年生は一人一台端末を活用して地域の「ぼうさい探検マップ」を作成し、マップコンクールへの応募も継続できた。
- 主にChromebookのプレゼンテーションアプリを活用し、学習発表会において各学年の発達段階に応じた発表ができた。

- ・足立区学習定着度調査では、どの学年も区の平均と同程度の実力を示した。今後は、ことばの力を高める活動をさらに強化して国語の正答率および通過率の向上を図ることが課題である。
- ・感染症対策を講じた「新しい生活様式」の中での学校生活が3年目となり、これまでの実績を踏まえた教育活動のさらなる工夫・改善に努める。特に、以前の行事開催方法を知らない低学年児童や保護者に配慮しながら、できるだけ従来の形で公開するように工夫していく。
- ・地域の方との協働授業の実施や交流給食・集会活動等への参観招待についても、感染状況が落ち着き次第再開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全で安心できる学校づくり	○	○	○	○	○
3	開かれた学校づくりの推進	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着		80%以上		国語 84.6%、算数 81.8%		2教科とも基準を達成した。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の定着	全児童 国・算 補充：低 正答率児	毎週 夏季 通年	・パワーアップタイム ・放課後学習教室 ・サマースクール ・AIドリル活用：朝・放課後 家庭学習	4月、12月 2月に過去の 区学力調査問 題（過去問） 実施	・国語の正答率 80%以上 ・算数の正答率 80%以上	(4月) ・国73.1%・算76.4% (2月) ・国72.0%・算74.0%	・4月の正答率、ほ ぼ区平均と同じ。 ・2月は、低学年は 80%を達成。中高 学年に課題あり。	○
2 新規	高学年の 教科担任 制の実施	高学年 国・社・ 体・外等	5月～ 週9回	3人の担任が担当教科を 決めて3学級で授業する。 ・各学年で教科を選ぶ ・各教科3時間×3学級	・進捗状況の 確認(毎週)	・各教科標準時 数の80% (国語以外)	5年：英・家・総合 6年：英・家・総合 週2時間の時もある	・教材準備時間短縮 ・教員の負担軽減 ・児童の満足度高い	◎

3 継続	授業観察 OJT	全教員	6月 10月 2月	管理職による定期授業観察 ・事前指導、OJTペアによる授業観察・事後指導 ・全29項目・授業の型 ・「西新井小スタンダード」 「足立スタンダード」の修得	・3半期ごと 授業カルテによる確認 ・カルテによる達成度を測定	・ことばの力を高める指導の工夫 ・カルテによる達成度平均75点以上	・定期授業観察計画通りに実施。 ・これまでのカルテによる到達度の平均値は70.8点。	・定期的な観察や自己評価は修正点の認識につながった ・新しい「型」を加えた。目標点まであと一步。	○
4 継続	若手教員 育成研修会	10年目以下の若手 教員	特設時間、諸会議、打ち 合わせ	・教職の基礎・基本、教科ごとの授業力の基礎・基本 ・危機管理・ICT機器活用等、知識・技能の修得	・研修会の開催回数	・年間50回以上	・1月末までに、54回実施。	・安定した学級経営につながった。 ・COT研修による体力向上も実施。	◎
5 継続	小中連携 研究会及び校内授 業研究	全教員	小中連 携4回 校内研 3回	・「学力の向上」を実現できる授業力向上を図る。 ・帯時間帯・ICT活用、言語活動、ノート指導効果的な指導法の開発	・研究会の開催回数	・小中連携研究授業4回 ・校内研究授業3回	・小中連携授業を4回 ・校内研究授業を4回実施。その内の2回は、区内教員に公開。	・計画以上の回数を実施できた。 ・区研究拠点校継続 ・児童用Chromebookを活用した授業研究を実施・提案。	◎
6 継続	特色① ICT活用 (区情報 教育研究 拠点校)	教員 授業全般	小中連 携研究会、校内 研究会	・ICT機器ならではの授業づくり ・遠隔地等との交流授業 ・テンプレート開発 ・プログラミング的思考	・研究会の開催実績 ・授業公開	・小中連携4回 ・校内研究3回 ・一人一台公開2回 ○合計9回	・小中連携4回 ・校内研究4回 ・一人一台公開は校内研究に含む。 ○合計8回*	・小中連携以外にも拠点校の研究として外部講師を招いた研究会を行い、授業の改善点を協議した。	◎
7 継続	特色② 防災教育	全児童	総合的な学習の時間	・防災巻授業を活用した安全教育の推進 ・地域の避難所運営訓練とのコラボ学習実施	・防災巻授業 ・児童が避難所運営訓練に参加	・全学年とも防災巻授業の実施	・全学年で防災巻授業、マイタイム活用。 ・地域の訓練はコロナのため中止。	・防災巻授業継続 ・5年は「ぼうさいコンクール」に応募して入賞。	◎
8 継続	特色③ プレゼン テーション能力育 成	全児童 *コミュニ ケーション能 力育成	各教科 校外学 習	・高学年児童によるTGGでの交流体験学習の実施 ・プレゼンテーションの指導実践研究(全学年)	・交流体験学習実施 ・研究授業	・TGG6年参加 ・プレゼンテーション研究授業2回	・6年がTGG参加。 ・SlideやJamboardによる意見交流。 ・学習発表会でプレゼン発表(246年)	・児童用Chromebookでの調べ学習・意見交換・プレゼンの場面が増えた。 ・入力スキルが高まり短時間でできる	◎

重点的な取組事項－２		安心できる学校づくり			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自らの安全が確保できる児童の育成と学校の安全確保	指導、訓練、研修会の完全実施	・安全指導、避難訓練、危機対応訓練等を計画通りに実施した。	・状況に応じて指導内容を追加変更して対応することができた	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの防止・早期解消	・いじめ防止基本方針に則った取組の完全実施	・「いじめ」の適切な理解、報告・連絡・相談で情報共有 ・「いじめ」を見逃さない学校の体質づくり	・「いじめ」を予防するための指導方法や留意点を研修した。 ・実態調査や意識調査を分析、早期発見・解決につなげた。	・子供同士のトラブルが重大な案件にならない内に解決することができた。	◎
安全指導の徹底	・全11回の安全指導、完全実施 ・避難訓練は多様な場面を想定し13回	・教育計画にある各月安全指導避難訓練、安全教室の確実な指導と避難訓練実施方法の工夫改善	・全11回の安全指導を完全実施 ・避難訓練はブロックごとに実施 ・新たな想定も加えて、計画通りの回数を実施できた。	・三密を回避した。 ・個人の実践力を評価して定着させた。	◎
児童の安全確保ができる教師	・「危機管理研修会」年間10回実施 ・各月「安全点検」完全実施	・研修会と現場での経験を通して全教職員に、①全ての危機管理に当事者意識をもたせ、②安全確保を職務行動として示すことができる力を身に付けさせる。	・コロナ対応の変更、大地震発生不審者侵入等、危機発生時の役割を確認、当事者意識を高めた。 ・安全点検を毎月実施し、修繕が必要な箇所は即対応した。	・対応マニュアルの修正、読み合わせ、不審者対应用刺股の追加購入を行った。随時確認・修正する。	◎

重点的な取組事項－３		地域に開かれた学校づくり			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
開かれた学校づくりの推進	P T C A委員の教育活動への参画と協働授業の推進	・新型コロナのため、一部実施。(茶道教室、花いっぱい運動等)	・感染対策をして一部実施。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
開かれた学校づくりの推進	P T C A委員の教育活動への参画と協働授業	開かれた学校づくりの推進	・6年生の茶道教室を実施。 ・協働授業は、コロナのため中止。	・一回の参加人数を減らして実施した。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点－1 学力向上アクションプランについて

【課題】・5年生算数は通過率が72.0%で、平均正答率は68%である。特に、折れ線グラフの読み取り、長文問題・記述式回答での無回答が20%であった。

【対策】・授業では、導入の5分間を「帯時間」として基礎基本の習熟にあてているので、AIドリルを使ってつまずきのある問題を繰り返し練習させる。

・補習学習では、折れ線グラフの読み取り、長文問題・記述式回答問題の類題を中心として、個別の躓きに応じた問題に計画的に取り組ませる。

・個別指導では、単元テストや各調査の結果から対象児童を決め、担任がAIドリルを活用して習熟の度合いを確かめながら継続して指導する。

・4学年の授業内容についての未定着であるから、今年度の4学年において学習指導を丁寧に行う。特に、「折れ線グラフ」の単元。

基礎学力の定着

- ・基礎学力定着のための朝学習「パワーアップタイム」を中心として、タイピングスキル向上のため「キーボー島」に取り組ませた。特に高学年児童は長文を入力する場面が多いため、タイピングスキル向上は喫緊の課題である。・放課後学習教室（特に算数）ではAIドリル活用が進んだ。

授業力の向上（授業観察・若手研修・小中連携・校内研究）

- ・校内研修会を54回実施（2月末現在）。児童が安心して生活できるような環境調整、感染症対策や危機管理など研修内容は多岐にわたる。
- ・第五中学校と連携した小中連携研究会、授業を参観し合い切磋琢磨した。幼稚園・保育園との連携事業は、感染症対策ができる範囲で行った。

特色ある学習活動の推進（ICT教育・防災教育・プレゼンテーション）

- ・「足立区情報教育拠点校」を継続、ICT活用における区の先進校として研究活動。「Google for School事例校」にも認定され、Googleアプリを活用した授業改善のテンプレート作成・オンライン授業実践例の報告などをした。今後も区の情報教育をリードしていきたい。
- ・全学年で防災巻授業。5年生は個人端末で作成「ぼうさいマップコンクール」に応募し入賞した。学習発表会ではSDGsをテーマにプレゼン発表

重点－2 安心できる学校づくりについて

いじめの防止：「WebQUテスト」を活用し自校で結果を分析。要支援児童対策検討委員会を6回行い深刻ないじめに進展しないようにした

安全指導の徹底：感染症対策「新しい生活様式」の修正・徹底。・避難訓練のマンネリ化防止と新しい内容への修正。

児童の安全が確保できる教師：「危機管理研修会」を重ね当事者意識を高めた。職員参集マニュアルの修正・確認、避難所設営ができるようにした。

重点－3 地域に開かれた学校づくりについて

- ・学校に無償の愛を注ぐ地域の方々と子供たちが実際に触れ合う機会は重要である。今年度も感染症対策を優先して一部の活動のみとした。
- ・地域の避難所訓練は今年度も中止になった。避難所開設の際には、児童による「ボランティア隊」を編成できるように準備しておく。
- ・地域の方々は例年と同様に児童と学校を応援してくださっている。感染状況と行動制限に応じて、以前のような協力事業を再開していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

西新井小学校は、90年を超える歴史と伝統を受け継いだ素晴らしい学校です。足立区のICTの研究校として指定され、どの学年も多くの授業で教師用・児童用端末を使い、「よく分かる授業」への授業改善に取り組んでいます。足立区学習定着度調査の結果は各学年とも区の平均値と同じ程度です。また、本校の特色：①ICT教育 ②防災教育 ③プレゼンテーション能力の育成を通して「持続可能な学校」にすることを目標としてきました。これからも本校に通う全ての子供、関わる全ての大人が充実した毎日を送れるように、指導の充実・改善に努めてまいります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

感染症対策は区の方針に従い、できるだけ従来の教育活動に戻していきます。子供たちが「自己教育力」を伸ばせるように努めていきます。